

令和5年度 学校評価シート①

八峰町立八森小学校

評価領域	学習指導
------	------

重点目標	主体的に学び、高め合う子どもの育成
------	-------------------



現 状	これまで、授業でICTの活用や「つながる場」の設定で、授業改善の共通実践に取り組んできた。県学習状況調査等では、4年生と5年生が県平均を大きく上回り、6年生もほぼ県平均レベルにあり、概ね目標を達成することができている。
-----	---



具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を効果的に活用するとともに、学習指導要領各教科の目標にある「見方・考え方」を働かせることを意識して授業改善に取り組む。 ○県学習状況調査等で、全学年が県平均を上回ることを目指す。
--------	--



目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの型を活用する。（「八森っ子の学び合い」「秋田の探究型授業」） ○ねらいを明確にした効果的な交流の場を設定する。 ○発問の吟味や「ゆさぶり」など思考を広げたり深めたりするしかけをする。 ○振り返りを充実させる。（振り返りの視点、振り返りの価値付け）
------------	--



具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修会において、全学年で学びの型「八森っ子の学び合い」を活用することを確認したり、本校の研究のキーワードである「つながる力」を明確に定義付けし、共通理解を図ったりした上で、「秋田の探究型授業」を意識した授業改善に努めている。 ○6月、7月、10月に『見合う授業』を実施。授業構想や発問、板書計画等多くの学びを共有できた。 ○児童が自分の考えをまとめたり、他者や全体で交流したりする場面等で、電子黒板やタブレットPCなどのICT機器を積極的に活用している。思考を深める場面での活用、ノートとの併用など、よりよい使用方法を模索している。 ○山本出張所長訪問をはじめ、複数の訪問で挙げられた課題（子ども主体の授業づくり、教師のコーディネート力等）について再確認し、研究主任のリーダーシップの下、取り組んだ。 ○9月15日（金）、3年算数科授業研究会では、考えを深めさせるための教師のコーディネートの在り方や、子どもの学びを丁寧に見取るTT指導の在り方等、確かな学力を身に付け、主体的に学び合うための手立てについて意見交換した。11月には、5年社会科授業研究会を行う予定であり、さらに授業改善について研修を深めたい。 ○12月に実施される県学習状況調査で成果が見えるように、今後の取組も確実に行っていきたい。
----------	--

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生の全国学力・学習状況調査では、国語、数学ともに全国平均を上回り、質問紙の回答も良好であった。 ○校内研修の充実を図ることで、授業の中で「つながる場」を意識的した「主体的・対話的で深い学び」の実践に、足並みをそろえて取り組んでいる。
------	--

P

D



自己評価	(評価) B	<ul style="list-style-type: none"> ○県学習状況調査では、5・6年は全教科において県平均を大きく上回った。一方で、4年生は国語と算数で県平均を下回った。 ○今年度、本校の研究のキーワードである「つながる力」をより具体的に定義し、意見交流や思考を深める場面での学習活動を工夫するなど、授業改善に努めてきたが、今後も継続して取り組んでいくことが大切であると考えている。また、教員の授業力向上のための研修も充実させていきたい。 ○ICTについては、研修会で学んだことや、ICT支援員や推進教師の指導を生かし、各教師がICTを効果的に活用する授業に意欲的に取り組んでいる。 	C
------	---------------	--	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価) B	<ul style="list-style-type: none"> ○学習状況調査結果を見ると目標が概ね達成されている。ICTを活用した授業が活発に行われている。 ○小学校は中学年の学習が大切であると言われており、個々の児童の能力を把握して、個に応じた指導の工夫をより一層図り、高学年から中学校へと円滑につなぐため、基礎・基本の定着に取り組んでほしい。 ○学力向上はもちろんであるが、知識・技能の詰め込みに偏ることなく、学習に対する情意面も育みながら「分かる・楽しい授業」を構築してほしい。 ○教員の授業力向上のための様々な取組は今後も継続してほしい。 	C
------------	---------------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業が定着し、教師・児童のスキルも向上している。ICTを効果的に活用しながら、児童同士が考えをつなぎ、深めていく授業の構築を図り、「分かる・楽しい授業」づくりを進めていきたい。 ○教員の授業力向上のため、校内研修の充実をさらに図るとともに、効果的なOJTを機能させるために、校内の学びの体制づくりに取り組んでいく。 	A
-----------------------	---	---

令和5年度 学校評価シート②

八峰町立八森小学校

評価領域	ふるさと教育
------	--------

重点目標	地域に笑顔と元気を届け、地域に感謝し、貢献する子どもの育成
------	-------------------------------



現 状	町CSを母体に、「JA秋田やまもと」や「読み聞かせグループかもめ」など、様々な団体と連携し多様な教育活動を展開している。昨年度も、八峰白神ジオパークを中心としたふるさと教育を実施することができた。児童が地域に笑顔と元気を届け、地域に貢献する活動に進んで取り組むためにも、まずは地域での積極的なあいさつを心掛けることを呼びかけている。
-----	--



具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学習や奉仕活動等を通して、地域の方々や専門の方々と触れ合うことでふるさとのよさや課題に気付き地域に貢献しようとする意識を高める。 ○県の調査等で、関連項目の回答の肯定の割合が県平均を上回る。
--------	---



目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○八峰白神ジオパークを中心とした地域学習の推進を図る。 ○小・中連携事業や地区児童会で、地域に貢献する活動を実施する。 ○生活科、社会科、総合的な学習の時間で広く八森地区に出かけ、楽しく地域のよさを学び体験する活動を行う。
------------	---



具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で計画的に八峰白神ジオパークを中心としたふるさと学習を進めている。 <ul style="list-style-type: none"> ・水産教室（4年）…真瀬川で鮎の稚魚放流 ・ジオサイト見学…三十釜・留山（3年）、御所の台・小入川（4年）、八森海岸（6年） ・宿泊体験学習（5年）…留山、磯遊び等 ○一昨年度から「親子でジオサイト」を実施し、保護者にも八峰白神ジオサイトについて理解してもらう機会を設けている。（海岸線コース、留山コース、三十釜コース） ○中学校と連携し、地区児童会で地区のクリーンアップ等、奉仕活動を行った。 ○生活科、社会科、総合的な学習の時間で岩館・観海・八森地区に出かけ、楽しく地域のよさを学び体験する活動を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・町探検…中浜地区（2年）、中浜・茂浦地区（3年） ・社会科見学…北部漁港（5年）、いとく能代北店（3年） ・梨狩り体験（2年）、さつまいもの苗植え、さつまいも掘り（全校） ○週1回、クラブ活動の「和太鼓クラブ」で地域の方から指導していただいている。学習発表会での発表に向けて意欲的に取り組んでいる。 ○月1回、「読み聞かせグループかもめ」による読み聞かせを行っている。4月、4年生に日本海中部地震を題材にした自作の紙芝居の読み聞かせを行った。自分たちの住んでいるところで起こった地震の恐ろしさに、真剣に耳を傾けていた。
----------	--

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「親子でジオサイト」をはじめとする様々な体験活動を通して、ふるさとのよさを再確認したり、様々な人と交流を広げたりすることができた。また、体験活動に参加した保護者からも概ね好評で、児童が学習している「ふるさと学習」の内容を理解することに役立っている。 ○地区児童会で地区のクリーンアップ等の奉仕活動は、地域の方々が参加して下さった地区もあり、交流の機会になった。
------	--

P

D



自己評価	(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○八峰白神ジオパークを中心としたふるさと学習に取り組み、ふるさとの理解を深め、活動を通して気付いたふるさとのよさを様々な形で表現することができた。一昨年から実施の「親子でジオ」は、保護者も子どもと一緒に地域について学ぶだけでなく、本校のふるさと学習の理解にもつながっている。 ○保護者アンケート(12月実施)でも、地域の自然や人と繋がる体験を今後も継続してほしいという内容が多数見られた。児童アンケート(12月実施)でも、児童は地域との触れ合いについて、肯定的に自己評価をしている。また、県学習状況調査の質問紙「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」の項目においても、全ての学年で肯定的回答が100%であり、様々な活動を通して地域への貢献意識も高まっている。 ○日常の地域でのあいさつなどは、児童によって、或いは地区・学年によって差があり、まだ改善の余地を残している。 	C
	A		

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの子どもたちが地域に貢献したいという思いをもっていることは、大変うれしいことである。今後も地域の自然や人と繋がる体験は継続してほしい。 ○地域で子どもと関わる機会が減ってきている。それが地域でのあいさつが消極的であることにつながっているのではないだろうか。 ○あいさつなど、他者とのコミュニケーションをとるスキルを身に付けさせるのは家庭の役割であるが、疎かになってきている傾向がある。学校で基本的なコミュニケーションスキルを身に付けさせ、校外での活動で実践できるようにしてほしい。 	C
	A		



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○3年の1サイクルが終了した「親子でジオ」については、工夫改善を図りながら継続していきたい。その他の体験学習についても、峰浜小学校と連携しながら、八森地区だけでなく峰浜地区にも学習範囲を広め、学習の充実を図りたい。 ○校外での活動の充実を図るための取組の一つとして、学校外の多くの人とよりよく関わるため、コミュニケーションスキルを体得を目指して、学校生活においてまずは「聴く」姿勢の習慣化(相手の目を見て、うなずき、拍手など)を図っていきたい。 	A
-----------------------	---	---

評価領域	体力向上・心の健康
------	-----------

重点目標	心と体の健康やたくましさをもった子どもの育成
------	------------------------



現 状	計画的に運動に親しむ機会を設定し、体力を向上させるようにしている。学校では元気のよいあいさつができるが、地域ではあまりできない児童がいる。あたたかい言葉遣いや思いやりのある行動をするなどの指導は継続してきている。
-----	--



具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○一生懸命運動する機会を増やし、体力やたくましさを付けさせる。 ○あいさつや「あたたか言葉の木」を活用した活動などを充実させ、心の健康につなげていく。
--------	--



目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○マラソン大会を春秋2回実施し、タイムの更新などの目標をもたせた取組を行う。 ○あいさつや思いやりのある行動などの大切さを意識し、あいさつ運動を実施したり、体験活動と道徳教育を組み合わせたりする。 ○学校生活の様々な場面において目標を設定させるとともに、ゴールまでの道筋を明確にさせて取り組ませる。また、「見守る」姿勢を大切にし、子どもたちが自分で解決していこうとする場面を意図的に設定する。
------------	--



具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童が運動できるように、児童会体育委員会が「すくすくタイム」にマラソン練習などの業間運動を実施し、児童も意欲的に取り組んでいる。 ○春季と秋季の2度のマラソン大会を行い、タイムや順位で目標設定をしっかり行わせ、表彰を行った。 ○全校で取り組む健康に関する強調週間「八森っ子ヘルス&ハピネス・チャレンジ」を「学校ヘルハピ」と「おうちヘルハピ」に分割し充実させている。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校ヘルハピ（歯みがき、姿勢、運動、偏食） ・おうちヘルハピ（朝食、夏休み生活、メイド・ゲーム） ○警察署員からのSNS利用の講話（児童対象）や情報モラルパンフレット配布による保護者への啓発活動を行った。 ○道徳的価値「思いやり」を、道徳教育の重点項目に設定するとともに、全校で「あたたか言葉の木」運動にも取り組んでいる。 ○水産教室や大森山動物園見学、花壇作業等、体験を生かした「いのちの学習」に取り組み、いのちについて考える機会を設けている。 ○清掃活動や様々な行事において、縦割り班活動を行った。班内で役割分担を明確にし、協力して活動できるように配慮した。
----------	--

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○マラソン大会では、1位や上位を目指して真剣勝負を挑む児童やタイム更新を目指して努力する児童の姿が見られた。また、お互いの頑張りを認め合う場にもなり、自己有用感を醸成する場にもなった。 ○縦割り班活動においては、お互いの頑張りを認め合う場を意図的に設定したり、高学年児童が低学年児童に優しく掃除の仕方を教えたりと相手を思いやる姿が見られた。
------	---

P

D



自己評価	(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回のマラソン大会に向けた取組などにより、意欲的に運動する児童の姿が見られた。新体力テストでは、小学2年男子がほとんどの種目で県平均を上回った。その他は県平均レベルであった。 ○「ヘルハピ」の取組では、「ヘルハピマシーン」や記録カードの活用により、保護者との連携が図られ、児童の健康や生活習慣への意識の高まりを感じている。 ○さまざまな体験活動や講話等を通して、動植物の命と向き合う活動を実施した。命の誕生の奇跡を実感し、家族への感謝の気持ちを抱いたり、植物の実りを喜び、感謝したりする機会を設定した。 ○保護者アンケート(12月実施)で、教師がいない場での言葉遣いの悪さを指摘する意見が複数見られ、相手の立場や気持ちに寄り添った言葉掛けが、よりよい人間関係を構築する基盤であることを全校で確認し、学級でも話し合う機会を設けた。今後も折に触れ話し、意識させていきたい。 	C
	B		

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)	<ul style="list-style-type: none"> ○来校したとき、お互いに声を掛け合いながら生活している子どもたちの様子を見ると、よい関係が築けていると感じている。 ○「読み聞かせ」を行った後の子どもたちの感想は、自分の感情を素直に表現できていて、心が育っていることを感じ、好感がもてる。 ○個人や学級の頑張りやよさを、集会等で他の学年に紹介する場をつくることで、自尊心の高揚につながる。ぜひ実践してほしい。 	C
	B		



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの心に響く様々な体験活動は、創意工夫を図りながら今後も継続していく。 ○子どもたちが安心できる学校・学級づくりのため、次の2点に力点を置いて取り組んでいきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ①ルールの意義の確認 ②発言や頑張り、よさを多面的に認める場の設定 	A
-----------------------	---	---